

衆議院安全保障委員会ニュース

平成 27. 4. 23 第 189 回国会第 8 号

4 月 23 日（木）、第 8 回の委員会が開かれました。

1 防衛省設置法等の一部を改正する法律案（内閣提出第 33 号）

- ・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

（参考人）慶應義塾大学法学部教授 細谷 雄一君
政策研究大学院大学長 白石 隆君
同志社大学政策学部教授 武蔵 勝宏君
獨協大学名誉教授 西川 純子君

- ・中谷防衛大臣、世耕内閣官房副長官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

（参考人に対する質疑）

中谷 真一君（自民）

- ・選挙で選ばれていない文官が自衛官に統制を加えるのは、民主的統制に反すると考えるが、細谷参考人の見解を伺いたい。
- ・派遣場所や目的、予算、人員の規模等は政策的見地から文官が判断し、その枠の中での運用については軍事専門の見地から自衛官の判断を優先させるべきと考えるが、細谷参考人の見解を伺いたい。
- ・防衛装備庁を防衛省の外局として新設するメリットとデメリットについて、また、我が国の安全保障に資する装備品の輸出を防衛装備庁がどのように行い、関与していくべきと考えるか、白石参考人の見解を伺いたい。

大串 博志君（民主）

- ・防衛生産・技術基盤の育成の難しさは他国も同様であると考えますが、他国の防衛生産・技術基盤はどのようになっていて、どのようにその困難さを克服しているのか、白石参考人に伺いたい。
- ・防衛装備庁を作ることが防衛生産・技術基盤の維持・育成にどのように役立つのか、白石参考人に伺いたい。
- ・防衛省設置法第 12 条の改正によって防衛省内の事務の流れはどう変わるのか、武蔵参考人に伺いたい。

下地 幹郎君（維新）

- ・中谷防衛大臣が「文官統制」の存在を否定する発言をしていること、また、そうであればなぜ防衛省設置法第 12 条を改正するのか、その意義について、各参考人の見解を伺いたい。

伊佐 進一君（公明）

- ・東南アジア諸国等に対する防衛省の国際協力をどのように行っていくべきと考えるか、白石参考人の見解を伺いたい。
- ・軍に対する民主的統制とは具体的にはどのようなことをすればよいのか、細谷参考人に伺いたい。
- ・冷戦後、防衛省内において内局による制服組の統制が弱まってきたという武蔵参考人の考察について、事例を踏まえて更に詳しく説明していただきたい。

赤嶺 政賢君（共産）

- ・安部内閣における戦後の我が国の在り方を根本から変えるような安全保障政策の変更は、米国の能力の相対的低下を我が国が補い、中国の軍事力強化に対抗するためであるという見方に対する西川参考人の見解を伺いたい。
- ・我が国による F-35 戦闘機共同生産への参画や本年度予算に計上されたオスプレイ、水陸両用車及びグローバルホーク等の調達と米国及び米軍事産業界の戦略の関係について、西川参考人に伺いたい。
- ・1990 年代に始まった自衛隊の海外における実任務と防衛省設置法第 12 条の改正の関係について、武蔵参考人に伺いたい。

照屋 寛徳君（社民）

- ・自衛隊に対する文民統制は、国会、内閣及び防衛省内の各レベルで行われる必要があると考えるが、細谷参考人及び武蔵参考人の見解を伺いたい。
- ・戦前及び戦中に軍部の暴走をシベリアンが止められなかった主たる原因について、武蔵参考人及び西川参考人

の見解を伺いたい。

- ・安倍内閣が武器輸出三原則等に代わり防衛装備移転三原則

(政府に対する質疑)

金子 万寿夫君 (自民)

- ・防衛省設置法等改正案には防衛装備庁の新設が盛り込まれているが、同庁新設の意義を防衛省に伺いたい。
- ・装備品調達を巡る不祥事が過去に相次いだが、防衛装備庁の新設に当たり新たにどのような不祥事防止策を講ずる考えなのか、防衛省に伺いたい。
- ・南西地域の防衛態勢強化の一環として鹿児島県奄美大島に陸上自衛隊警備部隊の配備が予定されているが、同部隊配備の具体的時期及び部隊規模を中谷防衛大臣に伺いたい。

佐藤 茂樹君 (公明)

- ・防衛省設置法第 12 条を改正する必要性と同条改正により変わる点、変わらない点を中谷防衛大臣に伺いたい。
- ・装備品調達を巡る不祥事が過去に相次いだが、これまで防衛省はどのような不祥事防止策を講じてきたのか、また、防衛装備庁の新設に当たり新たにどのような不祥事防止策を講ずる考えなのか、中谷防衛大臣に伺いたい。
- ・中谷防衛大臣は今年 10 日に行われた記者会見において、早期に日韓防衛相会談を開催したいと述べていたが、その実現見通しと同会談を開催する意義を伺いたい。

津村 啓介君 (民主)

- ・防衛省設置法等改正案には防衛省の所掌事務における国際協力の明確化が盛り込まれているが、ASEAN 諸国等との防衛装備協力の進捗状況を中谷防衛大臣に伺いたい。
- ・諸外国との防衛装備協力を推進するために装備品の専門知識を有する自衛官を防衛駐在官として各国に派遣すべきと考えるが、中谷防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・本改正案が成立した場合、内部部局における自衛官ポストの定員が 40 人から 48 人に増加することになるが、文官と自衛官の人事交流をより活性化させるため今後更にはその数を増やすべきではないのか、中谷防衛大臣の見解を伺いたい。

吉村 洋文君 (維新)

- ・歴代の防衛庁長官及び防衛大臣の平均在任期間が約 10 か月弱である中、行政の安定性及び継続性の観点からも

則を策定したことに関する西川参考人の見解を伺いたい。

防衛大臣を補佐する内部部局の果たす役割は重要と考えるが、今回、内部部局の役割に影響を与える防衛省設置法第 12 条改正を行う必要性について、中谷防衛大臣に伺いたい。

- ・現行防衛省設置法第 12 条の趣旨、解釈及び運用は、改正後の 12 条においても変更されないのか、中谷防衛大臣に確認したい。
- ・集団的自衛権の限定行使容認を含む安全保障法制の整備により自衛隊の役割及び任務は拡大することになり、文民統制の重要性は増していくと考えるが、中谷防衛大臣の見解を伺いたい。

赤嶺 政賢君 (共産)

- ・本改正案により防衛省の所掌事務に国際協力に関することを追加するとともに、国際的な防衛装備協力の窓口として防衛装備庁を新設することとされているが、改正前に防衛省が既に諸外国と防衛装備品に係る具体的な案件を進めていることは問題と考えるが、防衛省の認識を伺いたい。
- ・武器輸出を国が推進していくことは、国際紛争を解決する手段として武力による威嚇又は武力の行使を放棄することを定めた憲法第 9 条との関係でどのように説明できるのか、中谷防衛大臣に伺いたい。
- ・海外に輸出した武器がどのように使用されるかは相手国次第になってしまうことから、国際紛争を助長するおそれは否定できないのではないか、中谷防衛大臣の認識を伺いたい。

照屋 寛徳君 (社民)

- ・幹部自衛官を育成する防衛大学校において、上級生による下級生の恒常的ないじめ等が行われていることについて、中谷防衛大臣の認識を伺いたい。
- ・防衛大学校を卒業した任官辞退者数が平成 26 年度は 25 名と前年度に比べ倍増していることについて、中谷防衛大臣の認識を伺いたい。
- ・国及び加害者の元自衛官に対し損害賠償の支払いを命じた護衛艦「たちかぜ」の自衛官いじめ自殺事件に係る東京高裁判決が確定し、現在、遺族は公務災害認定の申請中であるところ、確定した高裁判決に鑑み速やかに当該認定をすべきと考えるが、審査手続の状況について、防衛省に伺いたい。